

みえ働くサスティナラボ

「働く女性が考えるみえのミライ」の 活動の軌跡

総括コーディネーター



萩原 なつ子さん

独立行政法人 国立女性教育会館理事長
男女共同参画に関する国唯一のナショナルセンター、国立女性教育会館の理事長として、全国で講演をされているほか、東京都豊島区、山梨県をはじめ、数々の自治体でジェンダーギャップ解消に関するワーキンググループのコーディネーターとして、政策提言に携わっています。



ファシリテーター



社会保険労務士
高原 祥子さん



合同会社ウーウェン代表
深谷 百合子さん



株式会社三重エフエム放送
西本 亜裕子さん

日 時

第1回：令和5年 9月21日(木)
第2回：令和5年 10月18日(水)
第3回：令和5年 11月27日(月)

会 場

● 津会場：三重県勤労者福祉会館
● 尾鷲会場：三重県尾鷲庁舎

主催：三重県・女性の大活躍推進三重県会議
受託運営：株式会社タスクール Plus 三重営業所

第1回

令和5年9月21日(木)

総括コーディネーター：萩原 なつ子さん
ファシリテーター：高原 祥子さん、
深谷 百合子さん

働く女性のワークショップ 津会場と尾鷲会場をオン 本音で意見交換をしまし



グループワーク 一見知事発表



尾鷲会場 グループワークの様子

挨拶

一見知事

「三重県は転入する人より転出する人の方が多い『転出超過』の状態であり、中でも若い女性の転出が目立っている。その背景にはジェンダーギャップ（男女間の格差）の存在があると考えられる。今日は、『もっとこうしたら働きやすくなる。住みやすくなる』と思うことについて、皆さんから本音で意見を出してもらいたい」とご挨拶いただきました。



挨拶 一見知事

講義

総括コーディネーター 萩原 なつ子さん

「日本のジェンダーギャップの現状と先進事例の取組みについて」
男女共同参画の歴史、日本のジェンダーギャップの現状、東京都豊島区をはじめとする先進事例の取組等に関する講義がありました。



講義 萩原さん

グループ ワーク

「三重県が女性にとってもっともっと働きやすく、住み続けたい魅力ある地域になるにはどうしたらよいですか？」という問いについて、メンバーを変えながら意見交換をすることで、多様な視点や気づきが得られるワールド・カフェ方式でグループワークを行いました。

ワールド・カフェとは？

ワールド・カフェは、小グループで席替えを繰り返しながら、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる話し合いの手法。



「みえ働くサスティナラボ」 スタート！ ラインでつなぎ、 た。



参加者からでた 意見

①ジェンダーギャップに関すること

補助的な仕事ばかり任される、会議のメンバーは男性ばかりなど、職場内で男性と対等でなく働きにくさを感じることもある。

②子育てに関すること

母親が主に家事育児を担うため、子どもの看病で有休がなくなる、時短せざるを得ない、やりたい仕事をあきらめざるを得ない、仕事を終えてからも子どもの世話、食事の用意など休む暇がないなどの現状がある。

③働き方に関すること

多様な働き方が選べると結婚・出産後もフルタイムで働きやすい。また、女性の管理職や経営者がもっと増えてほしいと思う。

④交通に関すること

三重県は車社会なので、渋滞が生活に与える支障が大きく、渋滞を緩和してほしい。車でしか行けない場所が多く、公共交通機関が充実していないと不便さを感じる。

⑤情報発信に関すること

医療や福祉の情報について、最新の情報がサイトでまとまっているといい。三重に住んでいても“三重のいいところ”を知らない人も多い。自分の暮らす地域のことをもっと深く知ることができれば愛着心が持てるのではないかな。

⑥公共施設や地域の活性化に関すること

子どもが安心して遊べる場所や、女性が楽しめるイベントや施設がもっとあるといいと思う。また、地域の方と交流する機会がもっとあっていいのではないかな。



講評・ まとめ



萩原なつ子さん

皆さん千円札の絵を描けますか？毎日見ているようなものでも、意外と詳しく分かっていないものです。「身近な事が見えていないかもしれない」ということに気づきましょう。そして、三重県のいいところ、行っている施策、自分の住んでいる市町はどうか、ぜひ次回までに調べてください。

第2回

令和5年10月18日(水)

総括コーディネーター：萩原 なつ子さん
ファシリテーター：西本 亜裕子さん、深谷 百合子さん



第1回で参加者の皆さんから出た意見の中から特に多かったもの、ジェンダーギャップの解消に関係するものについて、次の6つをワーキンググループのテーマとして選定し、参加者が議論を深めていきたいと思うグループに分かれました。

チームD 働く女性がステップアップするために

チームI ケア役割（家事・育児・介護）が女性に全集中！

チームV 誰にとっても働きやすい会社とは

チームE ジェンダーバイアスの解消！&ケア役割（家事・育児・介護）が女性に全集中！ *尾鷲会場

チームR より魅力的な三重県に！

チーム+ 働く女性が考えるみえの広報

グループ
ワーク

- それぞれのグループで、テーマについて深掘りして意見交換をしたり、気になることを調べたりするなど、どうしたら女性がもっと働きやすくなるか、具体的なアイデアを考えました。
- また、県庁の各部署の職員もグループワークに参加し、現在県で行っている取組などを紹介しながら意見交換しました。
- 最後に全体共有をし、各グループで話し合った内容をチームごとに発表しました。

..... 一見知事もオンラインで参加しました！

皆さんから頂いた意見について「県が取り組んでいること、今後どういった取組ができるか」を次回までに県庁内で検討し、第3回でフィードバックします！



第3回

令和5年11月27日(月)

総括コーディネーター：萩原 なつ子さん

ファシリテーター：高原 祥子さん、深谷 百合子さん



津会場 グループワーク



津会場 グループワーク



尾鷲会場 グループワーク



自分宣言

グループワーク・ 全体共有

○第2回の終了後、参加者の皆さんから出た意見について、「県が取り組んでいる事業」「今後取組を検討する事業」を県庁内で改めて精査し、その結果を第3回の冒頭で、県庁の職員より「ジェンダーギャップ解消のための取組案」として説明しました。

○一見知事もグループワークに参加し、参加者の女性たちからの「こうすればもっと働きやすくなる」という意見に真剣に耳を傾けました。

○最後に全体共有会をし、各チームで話し合った内容を発表しました。

チームでの発表の後は、参加者全員が、今後自分自身が取り組みたいこと、変えていきたいことを「自分自身の宣言」として発表しました。

○全体のグループワークは第3回で終了しました。

1月31日の成果発表会に向け、チームで連絡を取り合いながらまとめ作業を進めました。

1月31日の成果発表会で提言として発表していただくのを楽しみにしています！



尾鷲会場

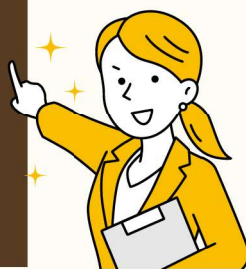


津会場

ジェンダーギャップ 解消フォーラム

令和6年1月31日(水)

会場：三重県総合文化センター 小ホール



開会挨拶

女性の活躍推進三重県会議 共同代表

伊藤印刷株式会社 代表取締役 専務 伊藤 恵子さん

株式会社三十三銀行 特別顧問 種橋 潤治さん

共同代表より、10周年を振り返り、女性の活躍推進三重県会議のこれまでの活動の支援への御礼とともに、今後10年、20年と歩みを止めずに活動が続けていくことについてお話がありました。



伊藤恵子共同代表



種橋潤治共同代表

10周年記念スライドの上映

女性の活躍推進三重県会議が発足10年目を迎えるにあたり、これまでの歩みを振り返るスライドを上映しました。

基調講演

「誰もが働きやすい企業へ ～トーエネックの挑戦～」

株式会社トーエネック 執行役員 人事部長 森 弘幸さんに「女性活躍はなぜ必要か」、「女性活躍に向けて具体的に取り組んでいること」、「取組の成果」などについて、データや、社員に向けて実施したヒアリングの結果等を用いてご講演いただきました。

最後に、「今まで女性がいなかった職域に女性を配置することで、新たなイノベーションが生まれることへの期待」と「誰もが働きやすい、エンゲージメントが高まる魅力ある職場を目指す」とお話をしていただきました。



森 弘幸さん

一般事業主行動計画の策定支援事業の事例発表

社会福祉法人 安濃津福祉会 事業部長 長谷川直美さんより事例発表をいただきました。

女性が多い職場ということで、「育児」や「介護」など、ライフステージの変化による働き方に関することや、職員の評価制度などについて課題があると感じており、本事業にご参加いただきました。

今後、「多様な人材が自分らしい働き方ができる職場環境づくり」や、「働き甲斐のある評価・報酬体系づくり」などに取り組んでいきたいとお話をしていただきました。



長谷川直美さん

成果発表

みえ働くサスティナラボ「働く女性が考えるミライ」

①「みえのミライ」に必要な視点とは ～働く女性のワークショップを通して～

総括コーディネーター 独立行政法人 国立女性教育会館理事長 萩原なつ子さんより、今回のワークショップを総括し、働く女性たちから出された提言を、政策形成に取り入れることの意義などについてお話をいただきました。



②ワーキンググループによる知事への提言と自分自身の宣言

チーム D

働く女性がステップアップするために

提言①『ええじゃないか！三重県版しくじり先生☆』

提言②『"輝くみえ女を全国へ！～みえの意識改革プロジェクト～"』

佐々木まや（株式会社松阪電子計算センター）

山田 葵（三井住友金属鉱山伸銅株式会社）

大門宮子（ミサワリフォーム中部株式会社）

渡邊愛弓（マツオカ建機株式会社）

立橋美穂（株式会社志摩地中海村）

チーム I

ケア役割が女性に全集中！

提言③『「企業トップのコミットメント発信」の実施』

提言④『「男性育児家事参画推進イベント」の実施』

提言⑤『男性のケア役割の参画推進の情報発信』

加藤果林（ミサワホーム中部株式会社）

佐々木清未（株式会社三エスゴム）

北川仁美（百五コンピュータソフト株式会社）

館 亜由美（河村産業株式会社）

窪田真理子（辻製油株式会社）

チーム V

誰にとっても働きやすい会社とは

提言⑥『「もったいない」を無くそう！』

提言⑦『自分らしく働ける会社へ』

佐竹美月（株式会社トーエネック）

長田良美（河村産業株式会社）

堀山由加里（辻製油株式会社）

山谷江理（株式会社三十三銀行）

吉川陽子（マツオカ建機株式会社）



ジェンダーギャップ解消フォーラム

②ワーキンググループによる知事への提言と自分自身の宣言

チーム
E

ジェンダーバイアスの解消！&ケア役割（家事・育児・介護）が女性に全集中！

提言⑧『☆働く女性の社会での戦力化☆』

提言⑨『☆働く女性を戦力化する環境整備☆』

大島美沙与（熊野商工会議所）

落合沙央理（三重県）

時松葉月（北越コーポレーション株式会社）

南 彩乃



チーム
R

より魅力的な三重県に！

提言⑩『「生涯三重」～みんなに優しい三重～』

提言⑪『「生涯三重」～灯るい三重～』

穴吹知美（マツオカ建機株式会社）

奥田典子（株式会社三エスゴム）

各務ひかり（百五コンピュータソフト株式会社）

助田真由希（株式会社松阪電子計算センター）

橋本早矢香（株式会社三十三銀行）

チーム
+

働く女性が考えるみえ広報

提言⑫『三重すりこみ作戦』

提言⑬『逆成績表』

上坂真子（三重交通グループホールディングス株式会社）

大森愛友（株式会社トーエネック）

岡井 彩（株式会社志摩地中海村）

濱井沙月（百五コンピュータソフト株式会社）





講 評

三重県知事 一見 勝之

○「今後、トップの方々、提言内容を話す機会をつくっていく、必ずやっていくという気持ち、やりぬくんだという気持ちをもって取り組むことが大事だと思う」というお話や、また、「自分自身仕事は忙しく、家族との時間が少なかった。こういうお父さんを少なくしたい」などのお話がありました。

○また各チームの提言に対して次のとおり講評されました。

チームD：働く女性がステップアップするために

身近にロールモデルとなる人がいない、活躍している方がいても業種などが違うと共感しにくい、という提言をいただきました。その通りだと思います。令和6年度にロールモデルに関する事業を実施できるよう考えていきます。

チームI：ケア役割（家事・育児・介護）が女性に全集中！

大事なのはトップの決断である、男性の育休の取得できるようにしてほしい、という提言をいただきました。とても大事なことだと思いますので、これからトップの方々とお話をする機会を作っていきたいと思います。

チームV：誰にとっても働きやすい会社とは

働きやすい職場環境、また、女性が働きやすいかどうかという観点からの評価というのも大事です。心理的安全性がない職場では、今後人が集まってこないということを強調していかなければならないと思います。

チームE：ジェンダーバイアスの解消！&ケア役割（家事・育児・介護）が女性に全集中！

性別に関わらず働きやすい企業を作る、ジェンダーのバイアスを解消する、このことはとても大事です。ジェンダーバイアスの解消に向けた取組が進むよう、働きかけていきたいと思います。

チームR：より魅力的な三重県に

子ども医療費や、保育士の配置基準、保育士不足の問題など提言をいただきました。子ども医療費の問題は、すぐに解消とはいかないものの、少しずつ前進しています。また、国にも要望しています。他の問題についてももしっかり考えていかなければならないと思います。

チーム+：働く女性が考えるみえの広報

取組をPRするのは大事なことです。特に、ジェンダーギャップの解消についてはどんどん積極的に前に出て発信していかなければならないと思います。



知事への提言と自分自身の宣言の詳細はこちら



